令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮国際中等教育学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	理科の学習状況調査の目標達成はできなかったが、さいたま市の他の公立校とのカリキュラムの違いによるものである。引き続き、探究的・教科横断的・協働的な学びを深めつつ、カリキュラムの工夫と改善を続けていく。
思考・判断・表現	探究的・概念的な学習指導の成果が表れているが、引き続き、探究的・教科横断的・協働的な学びを深めるため、カリキュラムの工夫と改善を続けていく。
主体的に学習に取り組む態度	「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問項目においては、特に2年生において、家で自分で計画を立てて探究学習を深める手立てを講じる。また、3年生においても、個人探究プロジェクトをより推進することで、授業以外の探究学習時間も増やす。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	R5年度全国学力学習状況調査の数学・理科の「知識・技能」における校内平均達成率が、市の平均正答率以上となる。 R5年度さいたま市学習状況調査の、数学「図形・関数」、理科「地球を柱とする領域」において得点率が各前年度得点率を上回る。	⇒	数学は「スタディサプリ」や放課後講座を活用し、基本的な理解の確認および基礎力を確実に身に付ける学習活動を行う。理科は各科目の専門教員が担当し、領域それぞれの領域のより深い理解を促すとともに、定着を図る。
思考・判断・表現	R5年度全国学力学習状況調査の数学・理科の「思考・判断・表現」において市の平均正答率を上回る。 R5年度さいたま市学習状況調査の、数学・理科「応用問題」において得点率が各前年度得点率を上回る。	⇒	教員の教科研究・研修を推進し、作問研究や問題分析能力を高め、効果的な総括的評価課題の作成や教科指導に生かす。また、生徒の思考および判断したプロセスを形成的評価やコメント等で評価し、適切なフィードバックを与える。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全体の回答率を上回る。	⇒	教科担当者・担任との個別面談および保護者との三者面談を実施し、個別最適化したスケジュール管理指導や学習・進路指導を行う。各担当教員が的確かつ継続的な指導ができるよう計画する。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	数学・理科の「知識・技能」における校内平均達成率は市の平均正答率以上となり、目標を達成することができた。数学「図形・関数」の得点率も、市の平均正答率以上となり、前年度得点率も上回った。しかし、理科においては中2のみ目標が達成できなかった。	A
思考・判断・表現	R5年度全国学力学習状況調査は目標を達成できた。R5年度さいたま市学習状況調査において、数学・理科は「基礎問題」のみ出題され、応用問題はなかったが、「思考・判断・表現」において市の平均正答率を大幅に上回り、目標を達成することができた。ただし、理科においてはいくつかの領域において目標を達成できなかった。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問項目においては、2年生のみ、肯定的な回答の割合が否定的な回答の割合を6.4pt下回り、全学年では目標を達成できなかった。	B

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（概ね達成）　C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	全体的には全国の平均正答率を上回っているが、国語では基本的な言葉の特徴や使い方に関する事項での差分がやや小さく、数学ではデータ分析に関わる基礎的な知識を問う問題の正答率が全国平均をやや下回った。基本的な知識の定着のため、学習の反復を図る必要がある。
思考・判断・表現	探究的・概念的な学習指導の成果が表れ、どの教科も思考・判断・表現の観点については全国平均正答率を大きく上回っていた。特に、質問に対する自分の考えと理由を説明する英語の問題は、記述でも口頭でも抜きんでていた。数学では、筋道立てた数学的思考の説明問題や関数の問題が全国平均正答率を大幅に上回っていた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は56.4％で全体をやや上回ったが、より一層、主体的・自律的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

中1	理科の2領域を除き、すべての教科の学習状況調査結果において、市の平均正答率を3pt以上、上回っていた。理科「粒子」を柱とする領域において、市の平均正答率を14.9ポイント、「生命」を柱とする領域において1.6pt下回ったが、今年度より改編された本校独自の理科カリキュラムでは、1年次に生物・化学分野を取り扱っていないためである。生物・化学分野については2年生で1年次より多い単位を使い、各科目の専門教員が授業を担当し、深い理解を促す。
中2	理科の1領域を除き、すべての教科の学習状況調査結果において、市の平均正答率を3pt以上、上回っていた。理科「地球」を柱とする領域の、主に知識・技能観点の問題において、市の平均正答率を4.2pt下回っていたが、地学分野を学習した時期と学習調査が行われたタイミングのずれにより、知識の定着が不足していたと考えられる。
中3	生活に関する調査「学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），1日あたりどれくらいの時間，勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。）」の質問項目において、「2時間未満～全くしない」の割合が「2時間以上」の割合17.7ptを大幅に上回った。例年、市の肯定的回答に対して3年生が最も大きく下回るが、高校入試のない中高一貫校ならではの環境が原因と考えられる。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし